

特 許 協 力 条 約

P C T

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 19 FEB 2004

WIPO

PCT

| | | |
|--|---|---------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 03P451WO | 今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/ IPEA/416）を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/JPO3/08259 | 国際出願日 (日.月.年) 30.06.2003 | 優先日 (日.月.年) 28.06.2002 |
| 国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ A61K38/16, A61P31/18, 37/04, 43/00 | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 扶桑薬品工業株式会社 | | |

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。

☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

I ☒ 国際予備審査報告の基礎II ☐ 優先権III ☒ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成IV ☐ 発明の単一性の欠如V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明VI ☐ ある種の引用文献VII ☐ 国際出願の不備VIII ☐ 国際出願に対する意見

| | | | |
|--|------------------------------|----|------|
| 国際予備審査の請求書を受理した日 17.10.2003 | 国際予備審査報告を作成した日 04.02.2004 | | |
| 名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 岩下 直人 | 4C | 9841 |
| 電話番号 03-3581-1101 内線 3451 | | | |

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
 応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
 PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項、 出願時に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査（または調査）機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

Ⅲ. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 39, 40

理由:

- ☒ この国際出願又は請求の範囲 39, 40 は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

請求の範囲 39, 40 は手術または治療による人体の処置方法を包含するものであるので、PCT第34条(4)(a)(i)及びPCT規則67.1(iv)の規定により、この国際予備審査機関が予備審査することを要しない対象に係るものである。

- ☐ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

- ☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

- ☒ 請求の範囲 39, 40 について、国際調査報告が作成されていない。

2. ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、有効な国際予備審査をすることができない。

☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

☐ 磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | | |
|---------------|-------|-------|---|
| 新規性(N) | 請求の範囲 | 18-38 | 有 |
| | 請求の範囲 | 1-17 | 無 |
| 進歩性(IS) | 請求の範囲 | | 有 |
| | 請求の範囲 | 1-38 | 無 |
| 産業上の利用可能性(IA) | 請求の範囲 | 1-38 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

国際調査報告において以下の文献が示された。

- 文献1. EZEKOWITZ, R. et al, A human serum mannose-binding protein inhibits in vitro infection by the human immunodeficiency virus, Journal of Experimental Medicine, 1989, Vol.169, No.1, pages 185-196
文献2. 原田 信志, HIVの感染を阻止する蛋白質, 臨床免疫, 1989年, 第21巻, 第11号, 第1782頁-第1787頁
文献3. 原田 信志 et al, HIV感染と免疫, 医学のあゆみ, 1996年, 第176巻, 第1号, 第44頁-第48頁
文献4. WO 00/69894 A2 (THIEL, Steffen)
文献5. 三間屋純一 et al, 血友病とHIV感染の現状, 医学のあゆみ, 1996年, 第176巻, 第1号, 第7頁-第11頁

文献1-4には、MBPの抗HIV作用ないしはHIV感染阻害作用について記載されている。

請求の範囲1-17に記載の発明は新規性及び進歩性を有しない。

文献1-4に記載されるように、MBPが抗HIV作用を有することは公知であるから、MBPの有する抗HIV作用の評価を試みることは当該技術分野の専門家に自明である。また、文献5には、p24蛋白がHIV感染のマーカーとなる旨記載されている(第9頁, 第10頁)から、MBPの有するHIV感染阻害作用の評価において、p24蛋白の測定を行うことは当該技術分野の専門家に自明の事項である。

請求の範囲に記載の方法とすることにより当該技術分野の専門家の予測を越えるような格別の効果が生じるものとも認められない。

請求の範囲18-38に記載の発明は進歩性を有しない。

請求の範囲1-38に記載の発明は産業上の利用可能性を有する。